

著作権保護コンテンツ



『ハロウィーンまで、まってなさい』

作／ミリアム・ヤング
訳／小宮 由 絵／平澤朋子
1,540円(岩波書店) 62P／ルビ

おもちゃ屋に飾られた4人姉妹の魔女のモビールは、もうすぐハロウィーンなのに、なかなか買い手がつきません。とうとうハロウィーンの夜になり、自分たちを買ってくれなかったお客たちに、いやがらせを始めました。



『低学年版 はりねずみの ルーチカ たまごの あかちゃん だーれだ?』

作／かんのゆうこ 絵／北見葉胡
1,540円(講談社) 80P／かな

頭の上にリンゴをのせた、ハリネズミの男の子ルーチカが森をお散歩していたら、虹色に輝く卵を見つけました。何の卵なのか、森の妖精ノッコのところに聞きに行きますが、ノッコもわからないと言います。



『バットマンジョン』

文／北川佳奈 絵／九が堂
1,540円(アリス館)
84P／ルビ／5編

もえぎ谷あざみ町のどくだみ坂の途中にある「バットマンジョン」には、心配性のキリギリスが暮らしていました。楽天家のマツムシや、オンブバッタの大家さん、はずかしがり屋のモンシロチョウたちとの、楽しい毎日です。



『あいたくて たまらない ももいろの貝とやどかりぼうやのお話』

作／おくやまゆか 1,210円(福音館書店)
64P／ルビ

泳ぐのが苦手なそうたに、海の近くに住むおじいちゃんが大きくてきれいな桃色の貝をくれました。夜になると、「ざざーん シクシク あいたいよ～」と声がしました。どうやら、貝から聞こえてくるようです。



『オハヨウ どろぼう』

文・絵／おのりえん
1,320円(理論社)
62P／ルビ

しんちゃんが朝起きると、「おはよう」が盗まれていました。最近、近所でウワサになっている、「オハヨウどろぼう」のしわざのようです。しんちゃんはおじいちゃんと一緒に、オハヨウどろぼうを探します。

『うたものがたり』

文／いまむらあしこ 絵／なかざわくみこ
1,760円(BL出版)
56P／ルビ／12編

「春が来た」や「どんぐりころころ」などおなじみのわらべ歌に、ひとつずつ小さなおはなしを添えて、アリやタヌキなど小さな生きものたちが登場します。「ゆりかごのうた」は電車のつり革から見たおはなしです。巻末に楽譜つき。



新刊



『まねをしました』

作／すずきみえ 絵／下平けーすけ
1,430円(文研出版) 80P／ルビ

遠足で行った水族館で心に残ったことを絵にする図工の時間、ゆうまは何を描くか迷っていました。ハルトくんが描いていた正面から迫ってくるサメを見て、カッコいいと思いマネをしています。



『ペンギンのトビオ』

作／斉藤 倫、うきまる 絵／嶽 まいこ
1,320円(偕成社) 80P／ルビ

ペンギンの男の子トビオは、はじめて飛行機に乗ることになりました。北極に住むシロクマと手紙を何度もやりとりして、とうとう会うことになったからです。氷と魚をトランクに詰めて、ドキドキのひとり旅に出発です。



『こてんちゃんがきた!』

作／いとうみく 絵／かのうかりん
1,430円(理論社)
63P／かな

ある日突然やってきた転入生は、一本下駄を履き、葉っぱのうちわを持って、背中に小さな羽のある子どもの天狗、こてんちゃんでした。ぼくの隣の席に座ったこてんちゃんは、なんだかちよっとえらそうです。



『かあさんうさぎと 金のくつ』

作／デュボース・ヘイワード
絵／マージョリー・ブラック
訳／いしぞねりえ
1,870円(徳間書店) 80P／ルビ

ウサギのフワフワは、世界じゅうから選び抜かれる「イースターうさぎ」になりたいと思っていました。丸くて小さな女の子だったフワフワは、やがて母親になり、みんなから選ばれるわけがないと言われていましたが、夢をあきらめません。

『ゆうやけ トンボジェット』

作／吉野万理子 絵／村上幸織
1,540円(くもん出版)
80P／ルビ

みんなからジェットと呼ばれるほど、ジェット機を見るのが大好きな赤トンボ。仲間と長い旅に出るかわりに、テントウムシと一緒に、小さなお客を乗せて飛ぶ、トンボジェットを始めることにしました。



『山の学校 キツネの としよいいん』

作／葦原かも 絵／高橋和枝
1,650円(講談社)
96P／ルビ

山の学校の図書館に、ある日キツネの子、リンがやってきました。リンは、子どもたちが貸し出しをする様子を窓から見ていて、バーコードリーダーの「ピッ」というのをやってみたいと言います。



『タヌキの土居くん』

作／富安陽子 画／大島妙子
1,210円(福音館書店) 56P／ルビ

さんかく山のふもとの小学校に通う3年生のアカネが登校してみると、隣の土居くんの席にタヌキが座っていました。どうやら、今学期の目標「なかよく、元気に、しょうじきに!」にならい、本当の姿を現したというのです。



『じゅんくんの学校』

文／福田隆浩 絵／ささめやゆき
1,430円(あすなろ書房)
56P／ルビ

じゅんくんは、スクールバスに乗って特別支援学校に通っています。2年生になってからは、名前を呼ばれたら手をあげられるし、イスにおとなしく座ることもできるけど、苦手なこともまだあります。



新刊 2025年3月以降に発売され、小誌ではじめて紹介する絵本です。

おはなし会の

現場ならではの
声が満載!

いま

普段から子どもたちに
絵本を読みきかせる活動をしている読者と
JPIC読書アドバイザーのみなさんにご協力いただき、
最近の読みかせ事情などを伺いました。
今後の活動にぜひお役立てください。

イラスト／アンヴィル奈宝子

※誌面の都合上、アンケートの回答すべてを掲載できませんでしたが、ご了承ください。

※Q1「おはなし会の実施状況は、コロナ禍以前の状態に戻っていますか?」と、Q2「みなさんのおすすめの1冊を教えてください」は、前号(95号)に掲載しています。

子どもたちの興味や集中力が持続できるよう、参加型や紙芝居、手遊びなどのプログラムを考えたりしています。また、参加者の年齢や季節も考慮した選書を心がけ、はっきりした色使いの絵本や大型絵本で見やすいものを選び、ページをゆっくりめくっています。照明の度合いや日の光の加減などにも気を使っています。

(香川県／一葉智代美さん)

絵本を読む前の導入として、子どもたちとアイコンタクトしながら手遊びや歌を歌ってワクワク感をつくるようにしています。基本的に参加人数、年齢や季節に合った選書をしますが、乳児以外の参加者にも、あえて赤ちゃん絵本を間に挟むと、とても反応が楽しいですよ!

(大阪府／清水敦子さん)

季節がずれないようにすることと、楽しい雰囲気をつくることを心がけています。

(岡山県／つねちゃんさん)

選書も組み立ても雰囲気づくりもどれも大切ですが、頑張りすぎてプログラムを盛りすぎると子どもたちも読み手も疲れてしまいがちです。腹八分目を心がけています。

(神奈川県／寺田智子さん)

はじまりのあいさつは明るく元気に!最初はクイズや歌など参加型絵本から始め、物語などは場があたたまった中盤以降に読んでいます。

(滋賀県／澤村 忍さん)

必ず予備本を数冊用意し、会場の子どものやりとりに合わせて当日プログラム変更ができるようにしています。詰め込みすぎず、余裕を持ったプログラムにします。

(秋田県／市川 泉さん)

プログラムの組み立てについて

選書について

Q3

選書やプログラムの組み立て、どうしていますか?

当然知っているだろうと思う本を知らない子が増えています。だまっけても子どもたちが手にとる本ではなく、定番、ロングセラー、昔ばなしなど、読みきかせで使わなければ子どもたちの目にとまらない本、でも読んでみたらおもしろい本を読みきかせで使うようにしています。

(長野県／こもりさん)

オーソドックスな作品を好む方とご一緒するときは、新しかったりエンタメ性のある本を用意し、どんな本を持ってくるかわからない場合はロングセラーを用意するようにしています。子どもたちとの時間は短いので、その短い時間にいろんな絵本にふれてほしいからです。

(埼玉県／坂口京子さん)

どんなに練習して、どんなに読みたい絵本でも、その場の空気ですぐ変えようと思っています。無理して読んだら、やはり楽しくないおはなし会になってしまうので。

(香川県／やまさん)

1冊目はアイスブレイクで雰囲気づくりのため興味を引き、子どもたちが集中できる場をめざします。季節感やイベントを感じられる作品を選書して盛り込み、年齢層に見合った長さの作品で構成します。余裕を持った時間配分を心がけつつ、時間調整のために、短めの予備の作品も準備します。読み終わったあとで、感想を聞くことは避け、興味を持った子が手にとることができるよう、立ててディスプレイします。

(千葉県／まおほうさん)

読みきかせについて、みなさんが気をつけていること
今回アンケートにお答えくださったみなさんが、
普段の読みかせ活動において、気をつけていることを伺いました。

著作権保護コンテンツ

今号の注目

『地理学者 シリアへ行く』

文／小口 高
絵／山本美希
1,760円(アリス館)

ほくは地面の下に重なる歴史を研究する地理学者です。シリアのデレリエ洞窟で、ネアンデルタール人が暮らしていた痕跡が見つかり、調査に加わるようになりました。まずは地形の測量をし、古代の水について調べます。



作者の小口 高さんより

この本には、私が20代のときに考古学者とともにシリア北西部の村を訪れ、地形や地層を調査した際の体験が綴られています。現地ではワリード君という特別な友人もできて、クルド人の彼からシリアの文化などたくさんのことを学びました。この本の制作中にワリード君の連絡先がわかり、彼が住むベルギーで再会し、本を手渡すことができました。山本美希さんの素敵な絵と合わせて、地理学者の仕事や、シリアの美しい風景を楽しんでもらえるとうれしいです。

『ピーマンマンと てんさいむしばキン』

作／さくらともこ
絵／中村景児
1,595円(岩崎書店)



虫歯学校の生徒たちは、虫歯をつくる子をさがしています。すると、いたいた、顔も洗わず、歯も磨かず、お菓子ばかり食べているピーマンマン。生徒たちは虫歯キンをピーマンマンの口の中に入れました。

『はじめてのサイエンス たまご』 『はじめてのサイエンス レモン』

文／セシル・ジュグラ、ジャック・ギシャール
絵／ローラン・シモン
訳／山本 萌
各1,540円(NHK出版)

身近にある「たまご」と「レモン」をじっくり観察してみましょう。たまごの中はどうなっているのか？ レモンの中には何があるのか？ などの秘密を遊びながら学べます。



『おれたちゃブルースマン』

文／おおなり修司
絵／飯野和好
1,540円(絵本館)

おれたちゃブルースマン。ブルでおぼれそうになっている女の子、おならを我慢している男の子、0点を取った男の子……。困っている子がいたら、すぐにブルースにのってやってきて、素敵な曲をプレゼントしますよ。



『山に登る』

写真・文／星野秀樹
1,760円(アリス館)

険しい山に荒れくるう雪山、いろいろな色におおわれている山。登っても登っても、どこまでも果てしなく続いている道。足もクタクタで疲れるのに、なぜ山に登るのでしょう。山のさまざまな姿を撮った写真絵本です。



『きこえなくなつて みみのきこえない プロやきゅうせんしゅのおはなし』

文／おがわひろき
絵／いしいつとむ
1,870円(イメージネーション・プラス)

聴覚障がいを持ちながらも大好きな野球を続け、夢だったプロ野球選手になった石井裕也選手の姿を描いています。「裕也は目で見る力が本当にすごいな」という監督の言葉や仲間たちの工夫も、少年を支えました。



『すごいぜ うたのちからって！ へいわをつくったロックンローラー』

文／ティティエ・レヴィ
絵／ロレンツォ・サンジヨ
訳／はしづめちよこ
1,980円(イメージネーション・プラス)

オオカミの口ペールは、ロックンロールのバンドをつくろうと、森にメンバー募集のポスターを貼りだしました。オオカミがくるところと思っていたのに、やってきたのはウサギのマックスだけでした。



『こころのあな』

文／リンジー・ボニヤ
絵／ブリジダ・マーズグロ
訳／東 葉奈
1,760円(岩崎書店)

亡くなった弟が寝ていたところに穴があります。パパやママの近くの弟がいたところにも穴が。この穴が大嫌いだと友だちに話してみたら、弟のことを思い出すことで、穴を埋めることができるようになりました。



『パトカーの うーたくん』

作／正高もとこ
絵／鎌田 歩
1,430円(岩崎書店)

海辺の町にうーたくんというパトカーがいました。うーたくんの仕事は、町の安全を守ること。ある日、自転車で飛びだしてきた男の子に「危ないよ」と注意をしたら、「うるさいなあ」と言われてしまいました。



『おひるね してるの？』

作／オリヴィエ・タレック
訳／石津ちひろ
1,760円(あすなろ書房)

リスとキノコのボックの楽しみは、飛んでいく鳥を見ることと、クロツグミの歌を聴くことです。でも、今日はクロツグミがいません。やっと見つけたクロツグミは、静かに動かず、眠っているように見えました。



『ダンゴムシのいる庭』

作／大野八生
1,540円(あすなろ書房)

石の下や落ち葉の下、身近な場所でよく見かけるダンゴムシですが、実は知らないことがたくさん。本の中に住む「庭師鳥」が案内役になって、その生態や役割を教えてください。虫たちは、命の循環の中で生きています。



『わたしたちのシーズン』

作／杉田比呂美
1,650円(あすなろ書房)



春が来ました。私たちのシーズンです。私たちは、ひとりでも、ひとりではありません。夏が来て、秋が来て、そして冬が来て。めぐりゆくすべての季節が、私たちのシーズン。明日も、きっと大丈夫です。

『本がきらい 本がすき』

作・絵／マリアホ・イルストウラホ
訳／小川紗良
2,090円
(アノニマ・スタジオ
発行：KTC中央出版)

夏休みに本を読むなんて最悪だと思っていた女の子でしたが、すすめられた1冊の本を読むうちに、様子が変わってきました。物語の魔法にかかったようです。もっとたくさんの魔法にかかるため、また、図書館へ出かけます。



『いしころ かくれんぼ』

作／たなかしん
1,430円(アリス館)

砂浜の石には動物が隠れているそうです。身だしなみを整えて、石探しの必需品を持ったらスタートです。最初に見つけた石は、アシカに、それからオウムにクジラ……。よく見るといろいろな動物があらわれました。



もう読んだ？ 新刊 100!!

2025年3～5月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちと素敵な時間を過ごしてください。

※出版社五十音順 ※㊦は右開きの本。

㊦ マークは乳幼児から、㊦ は中・高校生も楽しめる本です。

定期購読者限定プレゼント

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

『おこじょへの てがみ』

作／カイズケン
1,760円(あかね書房)

夏休み、ほくが山で出会った小さな動物はオコジョ。冬になると毛が白くなると聞いて、手紙を書くことにしました。遠い雪山に住むオコジョまで、いろいろな動物たちが手紙をリレーしてくれます。



『カメレオンたんてい・ドロン としゃかんどろぼう』

作／荻田澄子
絵／伊藤夏紀
1,430円(あかね書房)

カメレオンのドロンは本が大好きです。町の図書館で、ボロボロの本ばかりが盗まれる事件が起きました。名探偵のドロンは、あやしい館長のアライグマとミズクを、見張ることにしました。



『アラスカのむかしばなし よあけの はこ』

語り／ボブ・サム
絵／あずみ虫
訳／谷川俊太郎
2,200円(あすなろ書房)

お日さまも月も星もなかった暗闇の世界に、光をもたらしたのは、1羽のワタリガラスでした。アラスカの先住民族・クリンギット族に語りつがれた昔ばなしです。巻末の解説も忘れずに。



※JPIC直販の定期購読の方に、抽選で新刊絵本100冊から1冊をプレゼントします。巻末のアンケートハガキまたはホームページのアンケートフォームから応募してください。

著作権保護コンテンツ

プログラム(各10～15分) 小学校高学年

10月 テーマ: 実りの秋! 食欲の秋!

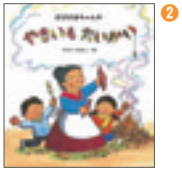
①『オムライス ヘイ!』

作/武田美穂 1,210円(ほるぷ出版)
リズムカルに読みましょう! この絵本を読んだ後日「オムライスをつくったよ!」と言われたことがあります。



②『ばばばあちゃんの やきいも たいかい』

作/さとうわかこ 1,320円(福音館書店)
いろいろと規制があつて、焼きいもをするのが難しいご時世です。せめて絵本の中で楽しみましょう!



③『ナミチカのきのこがり』

作/降矢なな 1,540円(童心社)
ナミチカの心の動きに気をつけて読みましょう。裏表紙もしっかり見せてくださいね(^_-)-



11月 テーマ: 不思議な出来事

①『DJ YOYO』

文/おおなり修司 絵/飯野和好 1,430円(絵本館)
DJヨーヨーになりきって読んでくださいYO!



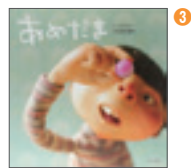
②『まほうのえのぐ』

作/林 明子 1,100円(福音館書店)
読み終えたら、「パラパラ漫画になるので、今度は自分で読んで、やってみてください」とすすめるのもいいでしょう。



③『あめだま』

作/ベク・ヒナ 訳/長谷川義史 1,650円(プロンズ新社)
パパの小言で埋めつくされたページは、少し自分の側に向けたほうが読みやすいと思います。



12月 テーマ: 妖精は本当にいるの?

①『ピロードのうさぎ』

原作/マージェリィ・W・ピアンコ 絵・抄訳/酒井駒子 1,650円(プロンズ新社)
以前読んだときに涙を流した児童がいて、感動しました! 何回も読み込んで挑戦してください。



②『クリスマスの まえのぼん』

詩/クレメント・ムア 絵/ターシャ・テューダー 訳/中村妙子 1,760円(偕成社)
「250年くらい前に書かれた詩です」と言うと、みなさんびっくりします。素敵な絵をしっかりと見せながら、ゆっくり読みましょう。



(横山裕美)

プログラム(各10～15分) 小学校中学年

10月 テーマ: 森でもりもり

①『そらから ぼふ〜ん』

作/高畠那生 1,430円(くもん出版)
絵本の中でしかありえないことですが、自分が体験している気持ちで読みましょう。



②『山のフルコース』

作/はらべこめがね 1,870円(小学館)
レストランの主人になったつもりで語ります。やはりありえない。でも、とても壮大で極上の料理ですので、自信を持ってお出ししましょう。



③『やきいもするぞ』

作/おくはらゆめ 1,540円(コブリン書房)
森の一員となって元気いっぱい、リズムに乗って読みましょう。おならの音も高らかに。



11月 テーマ: 秋のおくりもの

①『おちば』

文/おーなり由子 絵/はたこうしろう 1,650円(ほるぷ出版)
視覚、聴覚、触覚をフルに使って落ち葉を楽しみます。ダイナミックな動きが爽快です。



②『もみじのてがみ』

作/きくちちき 1,760円(小峰書店)
秋の森の生きものたちが探すもみじは、何を伝える手紙でしょうか。クライマックスは一面のもみじ色です。



③『たったひとつの ドングリが』

文/ローラ・M・シェーファー、アダム・シェーファー 絵/フラン・プレストン=ガノン 訳/せなあいこ 1,540円(評論社)
ひとつのどんぐりから始まる命の連鎖。言葉は簡単ですが、ひとつの詩のように丁寧に読んでください。



12月 テーマ: 一年が終わる

①『みるなのくら』

再話/おざわとしお 画/赤羽末吉 1,430円(福音館書店)
ひと月ごとに、一年をふりかえりましょう。なめらかに語れるように。



②『おいそがしの おおみそか』

文・絵/翁 藝珊 訳/高野素子 1,650円(ワールドライブラリー)
台湾の伝統的な大晦日が描かれ、日本との違いを感じてもらえます。お手伝いしては騒動を起こす子どもたちがほほえましいですね。



(粟生真弓)

プログラム(各10～15分) 小学校低学年

10月 テーマ: 秋の実りを楽しもう

①『どんぐりころころ おやまへかえる だいざくせん』

作・絵/スギヤマカナヨ 1,320円(赤ちゃんとママ社)
「どんぐりころころ」の、その後の替え歌です。何力所か歌いながら進めると、子どもたちはノリノリに。



②『さるとかに』

文/神沢利子 絵/赤羽末吉 1,760円(BL出版)
「さるとかにの本は他にもたくさんあるので、読み比べてみるとおもしろいよ」と何冊か用意して紹介すると、おはなしへの興味が広がります。



③『おにぎりをつくる』

文/高山なおみ 写真/長野陽一 1,320円(プロンズ新社)
つくってみたい子が続出しそうです。手順が覚えられるようゆっくり読みかかせします。



11月 テーマ: 体も心もポツカボカ!

①『にくまんどうち?』

文/刈田澄子 絵/大庭明子 1,320円(アリス館)
寒い日にハフハフ食べる肉まんは最高!! 知ってる? 11月29日は「肉まんの日」なんだよ。



②『ラーメンのおうさま』

作/山本祐司 1,485円(ほるぷ出版)
今すぐにもラーメン食べたくなるね。みんなは何ラーメンを王さまに選んだかな?



③『にぎやかな おでん』

文/犬飼由美恵 絵/出口かずみ 1,210円(教育画劇)
ねえ、おでんたちのおしゃべりを聞いてみて。きみたちをものしり博士にしてくれるよ。



12月 テーマ: 12月の秘密、教えます

①『ゆきのうえ ゆきのした』

文/ケイト・メスナー 絵/クリストファー・サイラス・ニール 訳/小梨 直 1,540円(福音館書店)
雪の下で冬越しするのはだあれ? どんなうち? さあ秘密の世界に行ってみよう!



②『サンタさんは どうやって えんとつを おりるの?』

文/マック・バーネット 絵/ジョン・クラッセン 訳/いちだいづみ 1,870円(徳間書店)
サンタさんは悪戦苦闘。スルスルと出入りできる方法を子どもたちがから募ってみては?



③『じゅうにしの はなし』

作/スギヤマカナヨ 1,430円(ひかりのくに)
順番決めの競争にはそれぞれの思惑が……。表見返しの足あとクイズにぜひ挑戦を! 十二支たちへの興味を誘います。



(岩井淳子)



対象別おはなし会のプログラムです。
ここで紹介する絵本や紙芝居は、
ご家庭での読みきかせにもおすすめです。
ブックガイドとしてもご活用ください。

行事絵本・季節の絵本

読書の秋

『図書館ラクダがやってくる 子どもたちに本をとどける世界の活動』

著/マーグリット・ルアーズ 訳/斉藤 規 1,540円(さ・えら書房)



本を読む楽しさに、図書館は大きな役割を果たしています。でも、身近なところに図書館があるとは限りません。そんなとき活躍しているのが、移動図書館などです。

クリスマス

『ウィンストンと クリスマスのおとしもの』

作/アレックス・T・スミス 訳/おおたにまゆみ 2,200円(潮出版社)



ポストから落ちた手紙を拾ったネズミのウィンストンのおはなしを、一日に1章ずつ読んでいけば、楽しいクリスマスを迎えられること間違いなし! 工作や料理の情報も満載です。

紙芝居

『ハロウィンのかぼちゃ』

脚本/ますいさちみ 絵/スズキコージ 2,090円(童心社)



ハロウィンに、かぼちゃでちょうちんをつくって飾るのはなぜだか、知っていますか。昔アイルランドであった、ジャックと悪魔のおはなしからなんです。

紙芝居

『ながいきしてね 七五三』

脚本/やすいすえこ 絵/福田岩緒 2,090円(童心社)



七五三は、神様とまわりの人に「ありがとう」を言う日。千歳飴には、元気で長生きするようにとの思いが込められているんです。

紙芝居

『おそうじ おそうじ おおそうじ』

脚本/すとうあさえ 絵/くすはら順子 1,650円(童心社)



一年の締めくくりには、大掃除をしましょう。ほうきに、ちりとり、ぞうきん、バケツを用意して、本棚も床もロッカーもピカピカになって、いい気持ちです。

(安富ゆかり)

保育者のたまごたちと絵本

保育現場の先生たちは、養成校で絵本についてどのように学んできたのでしょうか。
中京学院大学短期大学部の事例を栗岡洋美さんに伺いました。

取材・文／荒木晶子



園の子どもたちへの読みきかせでは、大型絵本を使うことも。しっかり支えて、よく見えるように気をつけます。



「くりくりらんど」の活動で、園でけん玉パフォーマンス。子どもたちも応援してくれ、盛りあげました。

併設の「中京こども園」とつながりを生かせる環境

岐阜県瑞浪市にある中京学院大学短期大学部保育科では、保育士、幼稚園教諭を育成しています。現在、1年生は44名、2年生は38名が在籍していて、卒業後は保育園や幼稚園、発達支援センター、乳児院などに進む学生がほとんどです。

本学科の特色は、キャンパス内併設の認定こども園「中京こども園」とのつながりを生かせるところにあります。学生たちが学ぶ教室から、園庭で遊んでいる子どもたちが見え、声も聞こえるという環境で、学生は授業でつくった作品を持っていったり、劇やダンスなどを見せにいたりするなど、園の子どもたちに直接か

かわるほか、家庭支援に関する学びの一環として保護者の話を聞くこともあります。子どもたちと遊んだり、創作活動をしたりと実践的な学びに意欲的な学生たちが多く、その中から学びを得ることを大事にしています。

絵本の選び方をさまざまな視点から学び

本学では「保育原理」「保育実践演習」など9つの科目を担当しています。その中で絵本を取り扱っているのは、1年前期に15コマで開講している「保育内容 言葉」という科目です。

この授業では、さまざまな視点からどのように絵本を選ぶのかを中心に学んでいます。子ども

では、「2歳の子にふさわしい絵本」などと年齢を指定し、学生たちがそれに沿って絵本を持ち寄って、小グループに分かれて読みかさをし合います。

絵本作家にフォークラスするときには、『この本 読んで!』も活用しています。学生が長新太さんや、かがくいひろしさんの絵本を持ってきたときは、私からお人柄なども含めて紹介し、「そこからこういう絵本が生まれたのかもしれない」などと展開しました。また、日本の昔ばなしや言葉遊びなど、ジャンルで取り上げる場合もあります。『ももたろう』など定番の昔ばなしでも絵本によって表現が異なり、読み比べてみると、学生たちは自分が読んだり聞いたりした絵本とは違うパターンがあることに驚いています。

多くの絵本にふれられるよう絵本リストノート課題

課題としては、「学生がいろいろな絵本にふれられたらいいな」という思いから、絵本リストノートの作成を課しています。B5ノートの1ページに1冊、読んだ絵本のタイトルや作者、出版社などのほか、自分の感想、実際に子どもたちに読むときに気をつけたいポイントや心がけたいことを書くスタイルです。書くことを前提とするとして読みますし、保育実習や卒業後の保育現場に立つときも役立つのではないかと思います。

一度にまとめて読んで書くよりもコツコツやってほしいので、授業に持ち寄った絵本だけでなく、図書館で借りてと伝えています。言うだけではなかなか難しい面があります。授業で絵本を持ち寄ってもらうのは、そこを補うのにも役立ついて、学生たちはほかの学生が持ってきた絵本に興味を持ってその場で読んだり、あとから図書館で借りたりなどしているようです。

作成する際には、「どんな絵本だったか思い出せるようなイラスト

トを残すといい」とアドバイスをしていて、カラーで力が入ったイラストを描いてくる学生もいます。どういうふうに子どもに読みたいかをたくさん書いたり、ジャンル別にインデックスをつけてきたりなど、自分で工夫し、その後も大事にしてくれている学生も多いようです。

学生主体で企画するゼミ活動「くりくりらんど」

ゼミでは、学生が主体となつて、中京こども園でいろいろな催しを企画する「くりくりらんど」を10年以上続けています。

今年度は、4〜5歳児のクラスに学生1〜2人が行って読みかかせをしています。半分ぐらいの子どもが集まり、ときには全員が集まることもあるようです。

はじめて行く前には絵本を選んで読む練習をし、私のOKが出たら、学生自身がアポイントを取っています。「反応が直接わかって楽しかった」「思っていた反応と違って気づきがあった」などの感想が聞かれ、純粹に子どもたちと絵本を楽しむ点が、学生にとつて得がたい経験になっていると



栗岡洋美 くりおか・ひろみ

中京学院大学短期大学部保育科准教授。保育の現場を経て、2014年より現職。専門分野は保育学、教育学。パパ絵本・ママ絵本、保育の中のわらべ歌遊びなどを研究テーマとしている。保育に関する書籍執筆のほか、「乳幼児の発達と絵本」などの講座、「子育て支援事業におけるママ絵本活動の効果」などの学会発表も積極的に行っている。

園の先生方からアドバイスがいただけるのも、貴重です。子どもたちが聞いてくれるか、絵本が年齢に合っているかと不安だった学生も「すごく気に入ってたね」「集中してたよ」などと言われるととてもうれしく、自信につながるようです。「もうちょっと場所を広くとるといい」「もう少しゆっくり読むといい」など、環境のつくり方や読み方などのアドバイスもあり、併設の園があるよさを感じています。

ほかにも劇やダンス、ワークショップのような遊びコーナーの設置など、さまざまなことをしてきました。ときには、園の先生方から要望をいただくことも。今年度は年長組がけん玉に取り組むので、「かつこいい!」とやる気になるよう、学生にけん玉パフォーマンスのリクエストがありました。くりくりらんど以外でも学生たちは鬼ごっこをしに行くなどコミュニケーションをとっており、学生だけでなく子どもたちや先生方にも、お互いに得るものがあるのではないかと思います。

※次号は、子育て支援施設での取り組みなどを紹介します。

日常的な子どもたちとの
関わりから得られる学びを大事に

支援の必要な子 と絵本

全盲や弱視の子どもたちにとって、「読む」とはどのような体験なのでしょうか。

神奈川県にある県立平塚盲学校の学校図書館を訪ね、幼稚部・小学部・教務部の先生方、そして、学校司書の方に日々の読書活動や子どもたちとの向き合い方についてお話を伺いました。絵本や読書を通して広がる子どもたちの世界と、読書体験に寄り添う大人たちの思いをご紹介します。

取材・文／小山まゆみ



学校図書館の絵本コーナー。幼稚部の子どもたちはマットの上やソファに座って、リラックスして楽しむそうです。



絵本のコーナーの一角。最上段の大型絵本のほか、左側の上下段には、点字つきさわる絵本がファイリングされて並んでいます。

つきはね」と説明するのではなく、まず粘土で「べったんべったん」とつく動きを楽しんだり、感触を味わったりします。そうした体験を通じて、言葉の意味を実感し、語彙や表現力を育みながら、自然とコミュニケーションの力も身につけていけるよう働きかけています。

ナスの絵本を読んだときには、最初は「ナスの色は黒」と言っていた弱視の子が、顔を近づけてよく見るうちに「紫っぽい」と気づいたり、丸ナスや長ナスなど、さまざまな形があることを知ったりしました。

このように、絵本を通して感じたり、気づいたり、遊んだりする体験を重ねる中で、言葉だけでなく、ものごとを観察する力や、自分の思いを言葉にする力も、少しずつ身につけています。

幼稚園では、読書活動を通して、言葉の持つ概念を広げながら、コミュニケーション力も育てていきたいと考えています。また、物語の世界にふれる中で、想像力が育まれるよう、日々さまざまな工夫を重ねています。

幼稚園 絵本の読みきかせにおいて、私たち教員が意識しているのは、まず「ゆつくり読む」ことです。単語や助詞、たとえば「が」や

読書支援の方法は、どのように変化していくのでしょうか。

絵本に出てくるものに、手でふれる体験が大切

読書支援の方法は、どのように変化していくのでしょうか。

幼稚園では、読書活動を通して、言葉の持つ概念を広げながら、コミュニケーション力も育てていきたいと考えています。また、物語の世界にふれる中で、想像力が育まれるよう、日々さまざまな工夫を重ねています。

この取り組みは、小学部の読書支援へどのように広がっていくのでしょうか。つぎは、次号で紹介します。

読書支援の方法は、どのように変化していくのでしょうか。

幼稚園では、言葉と体験が結びつく読書の時間を、日々積み重ねています。

幼稚園では、読書活動を通して、言葉の持つ概念を広げながら、コミュニケーション力も育てていきたいと考えています。また、物語の世界にふれる中で、想像力が育まれるよう、日々さまざまな工夫を重ねています。

視覚に障がいを持つ子どもたちにとって、読書にはどんな意味があると感じていますか？

田中さん（以下、幼稚部） 幼稚園ではまず、教室のどこに本棚があるか、どんな本があるのかを子どもたちに伝えることから始めます。「おもしろい本があるよ」と伝えることは、幼稚部として特に心がけていることです。

この時期の子どもたちは、手でふれて確かめたいという好奇心が旺盛です。知らない言葉やおもしろい言葉に出会うと、思わず顔を近づけたり、手をのばしたり。

本に向かうその姿から、興味がふくらんでいくのがわかります。

私たちは、そんなワクワクする気持ちを受けとめ、丁寧に育てながら、子どもたちが自然と本に近づいていけるよう、「本を読む」「本を開く」「習慣へつながることを意識しています。」

滝口さん（以下、小学部） 幼稚園と共通する部分は多いのですが、視覚に障がいがある子どもたちは、どうしても経験の幅が限られがちです。そうした子どもたちにとって、読書は世界を広げるために欠かせない手段のひとつ。本の中で出会う言葉や物語は、実際の体験だけでは得られないイメージや知識を与えてくれる、大きな力となる存在です。

読書活動を通して、どのような力を育てたいと考えていますか？

また、実際にどのような成長が見られますか？

幼稚園 絵本をきっかけに広がる遊びには、さまざまなものがあります。たとえば、お餅つきの絵本を読むときは、いきなり「お餅

読書が育む想像と知識の力



1910(明治43)年に開校された平塚盲学校は、幼稚部から高等部(本科普通科、専攻科)までの教育課程があり、寄宿舎も併設されています。写真は左から学校司書・池谷晶子さん、教務部教諭・畑谷克枝さん、小学部教諭・滝口千代さん、幼稚部教諭・田中麻衣さん。

言葉から広がるイメージが学びを支える土台に

子どもたちの姿を見ると、「読めるようになった」という喜びが芽生え、絵本から教科書へ、さらに教科書から自分の知らない世界へと、関心がどんどん広がっていくのを感じます。

中学部になると、読書を趣味として楽しむ子どもたちの姿も見られます。視覚に障がいがあっても、本は自分の世界を広げ、日常では出会えない世界にふれる、豊かな時間をもたらしてくれます。

読書活動を通して、どのような力を育てたいと考えていますか？

また、実際にどのような成長が見られますか？

幼稚園 絵本をきっかけに広がる遊びには、さまざまなものがあります。たとえば、お餅つきの絵本を読むときは、いきなり「お餅